地域住民主体のサル対策の取り組みについて

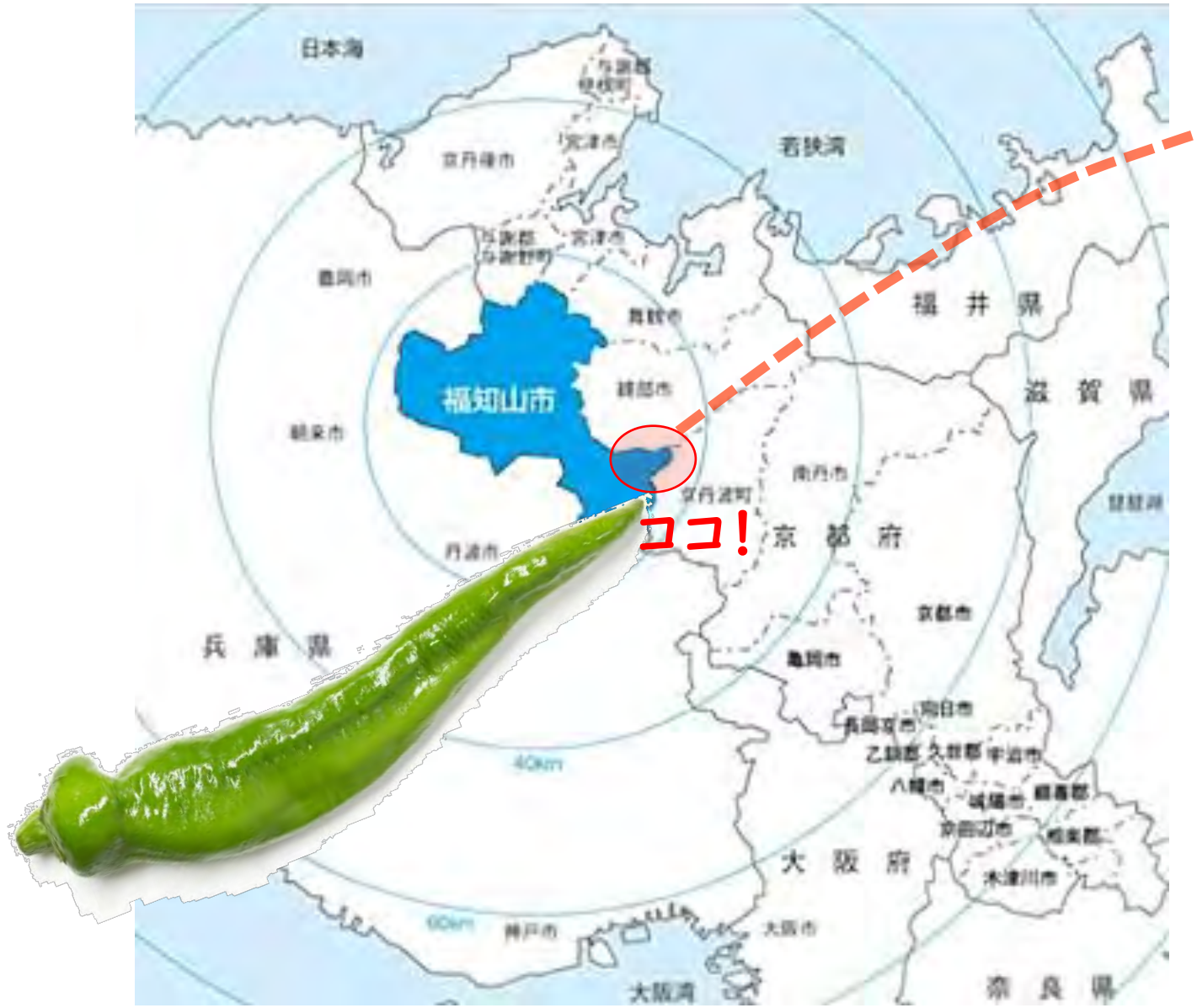
～川合地域モンキーキャッチプロジェクト～

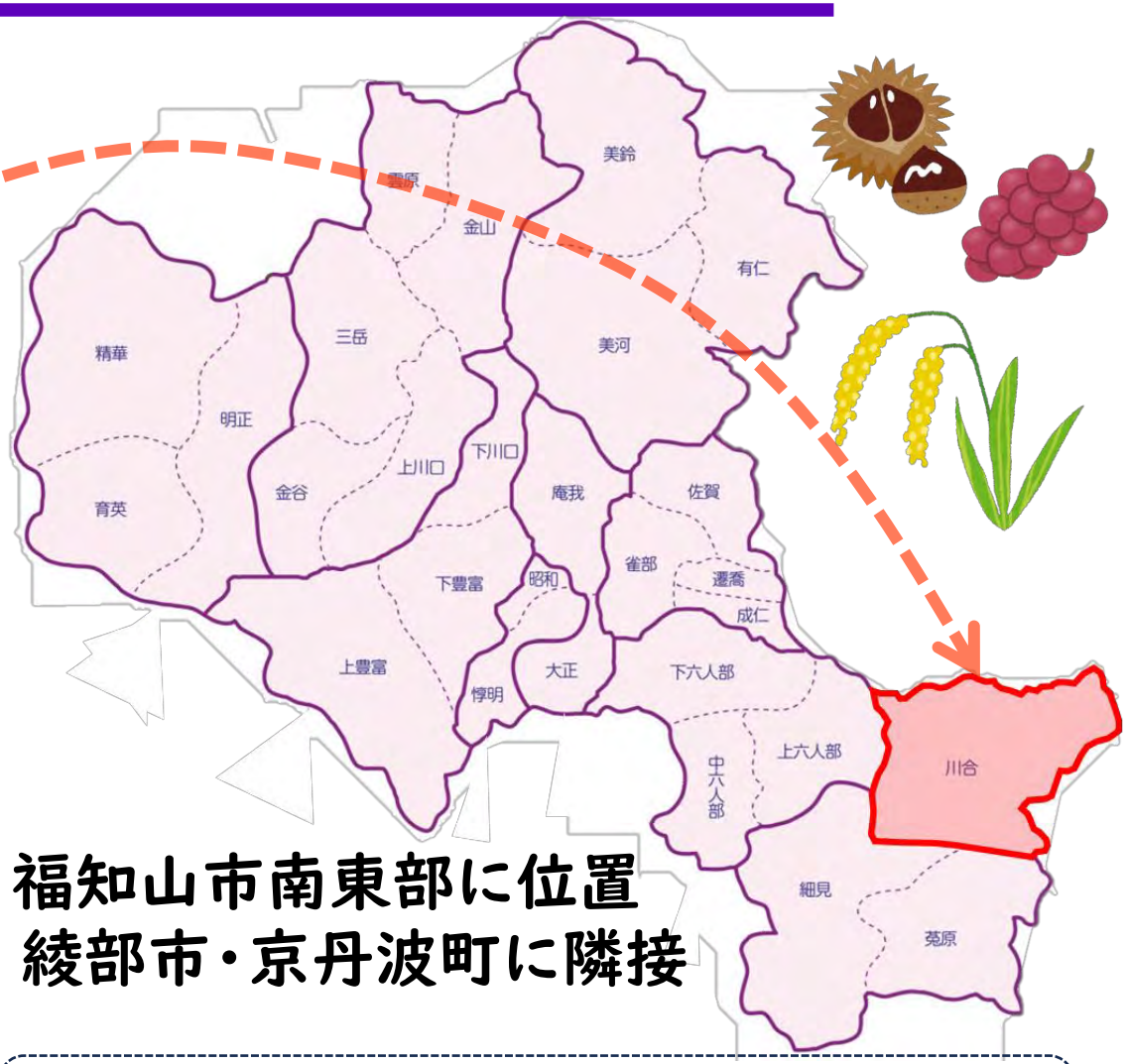
川合地域農場づくり協議会
代表　土佐 祐司

福知山市三和町川合地区とは…？

【農林水産大臣賞】 川合地域農場づくり協議会　地域住民主体のサル対策の取り組み

福知山市三和町川合地区とは…？





福知山市南東部に位置
綾部市・京丹波町に隣接

～主な生産物～
◦水稲　◦小豆　◦万願寺甘とう　◦葡萄　◦丹波栗

川合地区のサル対策の歴史（略歴）

時　期	内　容
平成15年頃	地域内で野生猿の群れによる農作物被害が発生
平成24年	試験の結果、最も効果のあった「おじろ用心棒」を採用して、圃場の防除
平成31年	群れの頭数が増加し、人家への侵入などの生活環境被害も発生 小型の捕獲檻、大型捕獲柵（地獄檻）による捕獲にも注力
令和元年	地域住民主体の「追い払い」「防除」「捕獲」と複合的なサル対策の態勢づくりが出来上がる （動物駆逐用煙火による追い払い。おじろ用心棒等による防除。捕獲檻・柵での捕獲。）
令和2年	メスザルに発信機を装着し、地域住民がサルの追い払いを実施 サル群れの位置情報をLINEグループ「モンキーキャッチプロジェクト」で共有し、計画的な捕獲や防除に活用
令和3年	広域的な対策を検討するため2市1町で「ニホンザル綾部E群連絡会議」を設置。 モンキーキャッチプロジェクトにも他市町のメンバーを追加し、サルの群れ位置の情報を共有。
令和4年	◦「サルイチ」の導入による地域住民への群れの位置共有と、移動経路データ化 ◦ICT機能付きの囲いわなを追加設置し、捕獲体制を強化。 ◦電気柵電圧遠隔管理システムを試験導入し、電気柵の通電状況の確認の負担軽減。

被害発生

地域主体のサル対策実施

ICT等の活用による省力化

川合地域へのサル出没の状況

ニホンザルによる農業被害

サルの被害は神出鬼没…だからこそ地域の協力が必要！

被害あり

〇被害軽減のためには捕獲もやむなし！
〇近づいたら追い払いをしなければ！

被害なし

〇駆除してしまうのはかわいそう…
〇被害さえなければ近くに居ても問題ない

サル被害経験の有無で対策に対するモチベーションに大きな差が生じる…

地域全体で対策の方向性を共有することが重要！！

地域で話しあい対策の目標を共有

上位目標　「川合がいつまでも川合であるために」

SDGs：17の目標「11.住み続けられるまちづくり」

具体目標　共存可能な範囲までサル被害を軽減させる

3本柱の対策

追い払い	住民参加型の組織的な追い払い
防除	圃場へおじろ用心棒を設置
捕獲	群れ（綾部E群）の数を40頭程度に維持するための捕獲

→ 当事者意識の共有と対策実施の合意形成